

## 第1回ヘルスケアプランナー検定オンラインセミナー概要

テーマ；感染症を正しく怖がる

### 1. はじめに

- (1) 感染症の原因は微生物
- (2) 病気の多くは感染症であり、かつては死因の上位を占めていた

### 2. 微生物と感染症

- (1) 微生物にも種類がある → それぞれで対策が異なる
- (2) 真菌、寄生虫
- (3) 細菌
- (4) ウイルス（変異を含む）
- (5) プリオン、ウイロイド

### 3. 文明の発達と感染症

- (1) 感染症の歴史（次頁参照）
- (2) 新興感染症、再興感染症
- (3) 日本における食中毒の変遷

### 4. 正しく恐れるには

- (1) 国の感染症対策 感染症法（感染症類型）、検疫法、水際作戦
- (2) 免疫とワクチン
- (3) 個人の感染症対策 正しい知識をつけるために  
（リテラシーとニューメラシー、  
ゼロにできないリスクは、危害分析してコントロールする→HACCP)

## 感染症の歴史

西暦	事柄
紀元前5000年頃 ～現在	結核の流行：抗生物質の発見により被害は少なくなったが、現在でも世界中で年間1,000万人以上の新規感染者があり、約170万人が亡くなっている。
541～542	第1次ペスト：東ローマ帝国において、ペスト様の感染症流行によって約1億人が死亡したと記録されている
13世紀にピーク (～現在)	ヨーロッパでハンセン病が大流行（十字軍の進行によるものと考えられている）
1347～1351 (17世紀まで続く)	第2次ペスト：交易の隆盛により、ペスト菌の保菌動物であるクマネズミを介してヨーロッパでペスト（黒死病）が大流行し、推計死者数7,500万人の被害を出した
1495～	ナポリでの梅毒流行：1539年までに、ヨーロッパで100万人以上の感染者がいたと試算されている
1675 (※)	レーウェンフックが顕微鏡を使って微生物の存在を発見する
1798 (★)	古代より人類を苦しめてきた天然痘の予防法として、エドワード・ジェンナーが種痘法の確立した。
1817～1823	第1次コレラの世界流行（現在は第7次世界流行の真っ只中）
1867 (★)	リスターが消毒法を確立する
1876 (※)	コッホが炭素菌の純粋培養に成功し、細菌が感染症の原因となることを証明
1881 (★)	パスツールがワクチンを開発する
1890 (★)	北里柴三郎、ペーリングが血清療法を開発する
1892 (※)	イワノフスキーが濾過性ウイルス（ウイルス）の存在を発見
1885～1905 (～現在)	第3次ペスト：中国・雲南省で流行した腺ペストが、1894年に香港での大流行をきっかけに世界へと広がった
1910 (★)	志賀潔、秦佐八郎らが、化学療法を考案する
1918～1919	スペイン風邪が世界的に流行し、3,000万～5,000万人の死者を出す
1929 (★)	フレミングが抗生物質ペニシリンを発見する
1977 (～現在)	エボラ出血熱の原因であるエボラウイルスを発見
1980 (※)	世界保健機構（WHO）が天然痘の撲滅を宣言（種痘法確立から180年余）
1982 (～現在)	腸管出血性大腸菌O157:H7の発見
1983 (～現在)	HIV（エイズウイルス）の発見
1989 (～現在)	C型肝炎ウイルスの発見
1997 (～現在)	高病原性鳥インフルエンザウイルス（H5N1）の発見
2002-2003	中国でSARS流行
2009	新型インフルエンザ（H1N1）が世界的に大流行
2012 (～現在)	サウジアラビアでMERSが流行し、アジア圏で徐々に広がりをみせる
2019 (～現在)	中国・武漢に端を発した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が世界へ広がる

西暦の★印は治療関係、※印は微生物関連、無印は感染症。

※新ヘルスケアプランナー教本より引用